

拜する者皆に敬虔な念を起さしむ。

本像の製作期に關しては、在銘もなく寺傳も詳らかでないで、確定的の言は謹みたいと思ふが、一にその造像形式により次の如く推定することが出来る。即ち本像は本寺と程遠からぬ佛土寺所藏の阿彌陀如來坐像にその像容の近似點を見出す。佛土寺の同像は承安二年「皇紀」の胎内墨書銘を有し、同じく定朝様式末流の作域を有するものである。而して當念佛寺本尊はその像容全體として、既記する如く定朝末流の形式になるが、螺髮の手法など稍々荒く太目で、その一部に來るべき時代の様相がほのかに窺はれるのである。藤原時代の盛期、七條佛所によつて完成された造佛の一規範も、時代の經つと共に様式の波の起伏が、次第に幽かになつてわづかにその餘韻を止めるにすぎなくなり、やがて次時代の新興様式が未明の光の如く漸く影さして來る。本像の如きはその作例の一に數ふべきものか。従つてその製作期に就て、藤末鎌初頃と推定して太過なからうと思ふ。

美術研究所時報

寄贈圖書

建築手鑑	昭和十四年版	建築學會
印度日記		尾高邦雄氏
江上清風		山元清秀氏
不折畫集		不折畫集編纂部
第二回文部省美術展覽會圖錄		文部省
史蹟名勝天然紀念物調查報告	昭和十四年度	香川縣史蹟名勝天然紀念物調查會
東方學報	京都十冊	日本建築士
思想	二〇六	新建築
文學	七〇七	美術

美術世界	三ノ八	美術街	六ノ七
學校美術	一三ノ七	圖畫と手工	二四〇
漆と工藝	四五二	陶磁	一一ノ二
美術育	一五ノ七	文部時報	六五七
教育美術	五ノ七	畫說	三一
最高美術	八ノ七	史迹と美術	一〇ノ七
汎工藝	一七ノ七	美術殿	七ノ七
貨幣	二四四	南畫鑑賞	八ノ六
史苑	一二ノ四	畫室	六ノ七
三田評論	五〇三	中央畫壇	二ノ三
アトリエ	一六ノ七	工藝ニュース	八ノ七
史學	一七ノ四	圖書館雜誌	三三ノ七
國際建築	一五ノ七	日本美術協會報告	五二
Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, Vol. 34, No. 6			
Museum News, No. 86			
Bulletin Musées des Royaux d' Art et d' Histoire, No. 2			

高士觀月圖部分

東京侯爵黑田長成氏藏

阿彌陀如來像

三重念佛寺藏